

氏名： 柴 真理子 (Shiba Mariko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 博士 (学術) (お茶の水女子大学 1996) /Ph.D
専門分野： 舞踊学・舞踊教育学 / Dance Research and Dance Education
E-mail： shiba.mariko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

舞踊運動の体感／舞踊行動時の脳活動／感性的コミュニケーション
bodily sensation of dance movement / brain function measurement of dance behavior /
Kansei communication

◆主要業績

・「近赤外線光トポグラフィを用いた舞踊行動中の脳機能計測」舞踊学会第 60 回大会

◆研究内容 / Research Pursuits

2008 年度は、自治医科大学の渡辺英寿教授 (脳神経外科学) と共同で、近赤外線光トポグラフィを用いて舞踊行動中の脳活動の計測を行った。具体的には、舞踊をみる、踊る (①観客なしで②観客の前で)、イメージする (①動きだけを②舞台上で踊る自分を) 時の、3 大関心領域の脳活動 (① FC: 前頭葉の正中部② FT: 前頭側頭部③ M: 運動野とその前部) を計測し、それぞれの舞踊行動時の脳活動の特性をみ、舞踊学会でその成果を発表した。

また、財団法人理工学振興会から奨学寄附金を得て、東京工業大学三宅准教授、オムロンのスタッフ他と舞踊における身体知及び歩行に関する研究に着手した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部教育：

「劇場舞踊論」「劇場舞踊論実験演習」では、劇場舞踊がそれぞれの時代の社会事象を背景として他の芸術とどのような関わりを持ち、その中で舞踊は何を発信し、どのように受け止められてきたかを解説した。その上で、現代に生きる学生自身が、時代状況を把握し、人間と舞踊の関わりを多角的に捉え、様々な方法で舞踊にアプローチすることが可能になるように、演習では、舞踊をめぐるキーワード（身体・感性・イメージ・創造性・コミュニケーションなど）を取り上げた。また「舞踊教育法実習中等教育」では、創作ダンスの指導力とは何かを理解し、指導力を身につけるために、数人のグループに分かれて言葉かけの実習に力を入れた。また毎時間の授業記録を求めた。その結果、授業記録から、自らが創って踊る力を指導にどのように生かしていけばよいのかを考える態度が養われていることがうかがわれた。

大学院教育：

大学院前期課程2名、後期課程3名の院生を指導し、修士論文の指導を担当した。

Undergraduate Teaching.

Initially, I taught two classes: "Study of Theater Dance" and "Seminar. Study of Theater Dance." The students were presented a general overview concerning the prehistory and history of Theater Dance. My teachings explained how theater dance had been related to other arts, pointing to the background of social phenomena in each period, what messages dance had conveyed, and how they had been taken in relation to the other arts. In my seminar I gave lectures based on the following key words: body, Kansei, image, creativity, and communication. This was done in order for students to better grasp their current situation, to study the relation between humans and dance from all angles, and to be able to view dance from a variety of perspectives.

Additionally, I taught the class "Teaching Method in Dance Education." Here I placed emphasis on the practice of how to address dividing a few students into groups, so that students could understand what leadership is like, and how they can acquire leadership qualities. I required students to record all my classes, and as a result, I could see the students develop a stronger attitude by trying to make use of their own creative dancing ability.

Graduate Teaching.

I taught 5 graduate students (one belongs to master course, two belong to doctoral course. My only involvement consisted of teaching one master thesis.

◆研究計画

- 1、脳科学者と共同で舞踊と脳科学に関する研究に着手した。例えば、舞踊創作中の脳はどのような働きをしているのか、舞踊専門家と一般人では舞踊鑑賞時の脳の働きに違いがみられるのか等、これまでの研究で取組んできた舞踊の特性に脳科学からアプローチする。
- 2、自己理解・他者理解としての舞踊の特質を、体感・鏡像・場といった概念によって考察し、そこから舞踊教育、ダンスセラピーなどの指導における臨床的な舞踊の実践的研究について精神医学者と共同で著書を執筆する。
- 3、工学者と共同で、舞踊における身体知、及び歩行に関する実験を開始している。
- 4、継続的に研究を進めている舞踊運動の体感について、「異文化理解」という視点を持ち込み、科研費を得て「創造的身体表現活動による態度変容と異文化理解—文化に固有な舞踊運動の体感を通して」を、韓国芸術大学の舞踊学教授の協力を得て、3年計画で実施する。

◆メッセージ

本学の舞踊教育学コースは、日本の国立大学法人で舞踊教育学を専門に学ぶことのできる唯一のコースです。舞踊に関する様々な知識と舞踊実技をバランスよく学びます。舞踊に対する知識が、舞踊創作や鑑賞の力を養い、また自らの舞踊経験が、舞踊に対する学問的なまなざしを拓きます。

受験生はきっと「上手になりたい」という強い思いをもっていると思います。しかし、上手くなるには創る技術・踊る技術だけを追うのではなく、「なぜ、上手になりたいのか」「上手くなるとはどういうことなのか」という疑問を持つことが大切です。そのことを考えていくプロセスは、自分自身の向上のみならず、将来、指導者として指導する際の手がかりを得ていく過程でもあります。

創り・踊りつつ、自分の舞踊活動に問いを立てそのこたえを探究する、そして、その探究が次の創作への力となる、このダイナミックな循環、この醍醐味を体感しませんか。